

活動報告

新宿区の HIV・性感染症検査事業の取組 —地域特性を踏まえた検査事業の現状と課題の検討—

HIV and Sexually Transmitted Infection (STI) Testing Programs in Shinjuku City

石川 有紀¹⁾, 宮城 亮佑²⁾, 本多真理子¹⁾, 斎藤 将智¹⁾, 小 柳 淳¹⁾, 田中 健太³⁾, 小川智詠子¹⁾,
武藤 正治²⁾, 渡邊 愛可¹⁾, 石原美千代¹⁾

¹⁾ 新宿区保健所, ²⁾ 新宿区福祉部, ³⁾ 三光クリニック蒲田駅前院

Yuki ISHIKAWA¹⁾, Ryosuke MIYAGI²⁾, Mariko HONDA¹⁾, Masatomo SAITO¹⁾, Jun KOYANAGI¹⁾,
Kenta TANAKA³⁾, Chieko OGAWA¹⁾, Shoji MUTO²⁾, Aika WATANABE¹⁾ and Michiyo ISHIHARA¹⁾

日本エイズ学会誌 28 : 52-57, 2026

序 文

新宿区は東京 23 区のはほぼ中央に位置する特別区である。人口 352,395 人 (2025 年 4 月 1 日時点) のうち, 外国人 47,526 人 (13.4%), 外国人住民の国籍は 129 カ国¹⁾ であり, さまざまな文化や価値観を有する人々が共存している。また, 新宿駅の西側には高層ビル群が形成するビジネス街, 東側には歌舞伎町や新宿二丁目等の歓楽街があり, 新宿区は多様な人々が行き交う繁華街を擁する都市という地域特性がある。

新宿区は, 性感染症の早期発見を目的とし, 1986 年度から HIV 検査を有料で開始した。1999 年度からは HIV 検査に梅毒検査を追加し, 「HIV・性感染症検査 (以下, 本事業)」を定期検査として匿名・無料で開始した。加えて, 地域特性上, 2001 年度から男性間で性的接触を行う者 (以下, MSM) を主な対象とした「男性のための検査」, 2018 年度から女性の性風俗産業従事者 (以下, SW) を主な対象とした「女性のための検査」をイベント検査として本事業に追加した。

本事業の取組と課題について報告する。

方 法

新宿区が保有する本事業に関する実施回数, 受検件数, HIV 陽性件数, HIV 陽性率, 検査定員, MSM 件数, SW 件数のデータを収集・分析した。検査によってデータの保

第 38 回日本エイズ学会学術集会 (2024 年, 東京) において優秀演題賞を受賞した。

著者連絡先: 石川有紀 (〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-18-21 第 2 分庁舎分館 新宿区保健所)

2025 年 6 月 19 日受付; 2025 年 10 月 30 日受理

持期間が異なるため, 定期検査は 1999 年度から 2023 年度まで, 「男性のための検査」は 2001 年度から 2023 年度までのデータを対象とした。なお, 「男性のための検査」の MSM 件数は, データを保有している 2015 年度以降を調査対象とした。

さらに, 2023 年度の本事業の問診時に受検者から聞き取った受検理由のデータを収集・分析したほか, 各検査の周知方法について調査した。

結 果

新宿区は, 1987 年 2 月から有料で HIV 検査を開始した。その後, 1989 年 3 月から匿名検査, 1993 年度から原則無料とした。また, 1999 年度から梅毒検査, 2000 年度からクラミジア検査, 2006 年度から B 型肝炎ウイルス検査を追加した。

1. 本事業の概要と実績

本事業には定期検査と不定期に行うイベント検査がある。本事業の概要と実績を表 1 に示す。いずれの検査も検査定員は 1 回の検査につき 40~50 人, 検査項目の必須項目は HIV, 任意項目は梅毒, B 型肝炎, クラミジアであった。なお, 新型コロナウイルス感染症の影響により 2020 年度は検査を中止し, 2021, 2022 年度は 2019 年度と同程度の検査回数と検査定員を予定したものの, 回数, 定員ともに予定数を減少して実施した。検査従事者数および職種は, 検査日は 14 人程度 (医師, 保健師, 看護師, 臨床検査技師, 事務, 外国語通訳), 結果日は 10 人程度 (医師, 保健師, 事務, 外国語通訳) であった。外国語対応は, 4 カ国語 (英語, スペイン語, ポルトガル語, タイ語) で

表1 新宿区における HIV・性感染症検査の概要と実績（2024 年 3 月末日時点）

		定期検査	イベント検査		
		HIV・性感染症検査	「男性のための検査」	「女性のための検査」	
概要	実施期間	1999 年度～2023 年度 (25 年間)	2001 年度～2023 年度 (23 年間)	2018 年度～2023 年度 (6 年間)	
	対象者	希望者 (検査定員：55～70 人 / 回)	MSM を含む男性 (検査定員：50～70 人 / 回)	SW を含む女性 (検査定員：50～70 人 / 回)	
	検査項目	必須：HIV 任意：梅毒，B 型肝炎，クラミジア			
	検査回数	月 2 回程度	年 2 回	年 1 回	
	検査従事者数 および職種	検査日：14 人程度（医師 1 人，保健師 4 人，看護師 1 人，臨床検査技師 3 人，事務 2 人， 外国語通訳 3 人） 結果日：10 人程度（医師 2 人，保健師 4 人，事務 2 人，外国語通訳 3 人） ※ 「男性のための検査」「女性のための検査」は，夜間を実施しているため，運営管理 上，検査日，結果日ともに保健師もしくは事務 1 人を追加配置			
	外国語対応	英語，スペイン語，ポルトガル語，タイ語（3 人の外国語通訳で 4 言語を対応）			
	2023 年度の周知方法	区ホームページ，区 SNS， 区内大学へのリーフレット 送付，イベントでの広報等	区ホームページ，区 SNS， 委託先 NPO 法人によるゲ イ向けリーフレット作成お よび新宿二丁目周辺での配 布，SNS 等	区ホームページ，区 SNS， 区内ホテルや大学，女性を 支援する NPO 法人等への 啓発資材の配布等	
2023 年度の周知用リー フレットのタイトル	HIV・性感染症検査	ゲイのための HIV・性感染 症検査	女性のための HIV・性感染 症検査		
実績	計上期間	1999 年度～2023 年度 (25 年間)	2015 年度～2023 年度 (9 年間)	2018 年度～2023 年度 (6 年間)	
	実施回数	548 回	15 回*	4 回	
	HIV 陽性件数（割合）	142/18,237 件（0.8%）	10/696 件（1.4%）*	0/122 件（0%）	
	梅毒 RPR 陽性件数 （割合）	88/6,379 件（1.4%）*	29/690 件（4.2%）*	0/120 件（0%）	
	クラミジア PCR 陽性 件数（割合）	371/6,036 件（6.1%）*	26/687 件（3.8%）*	8/103 件（7.8%）	
	B 型肝炎（HBs 抗原） 陽性件数（割合）	23/5,502 件（0.4%）*	5/691 件（0.7%）*	0/118 件（0%）	
	外国語対応件数（割合）	2,227/6,428 件（34.6%）*	143/702 件（20.4%）*	27/122 件（22.1%）	
	2023 年度の受検者の 受検理由	「無料」，「クラミジア検査 を希望」等	「お店に貼ってあったリー フレットを見た」，「マッ チングアプリの広告を見た」 等	「大学の保健室でリーフ レットを見た」等	
	受検者数 / 検査定員	2018 年度	1,268/980 件（129.3%）	98/80 件（122.5%）	29/40 件（72.5%）
		2019 年度	1,222/1,250 件（97.7%）	124/100 件（124.0%）	37/50 件（74.0%）
		2020 年度	（中止）	（中止）	（中止）
2021 年度		19/40 件（47.5%）	19/40 件（47.5%）	（中止）	
2022 年度		263/960 件（27.3%）	62/80 件（77.5%）	27/40 件（67.5%）	
2023 年度	721/1,050 件（68.6%）	78/100 件（78.0%）	29/50 件（58.0%）		

* 2015 年度～2023 年度の実績

あった。

1-1. 定期検査について

希望者を対象に、月2回程度実施した。2023年度の周知は、区のホームページやSNSへの掲載、区内の大学へのリーフレット送付、イベント等での広報を行った。

1999年度から2023年度までの25年間のHIV検査の実績は、実施回数548回、受検件数18,237件、HIV陽性件数は142/18,237件（0.8%）であった。2015年度から2023年度までの9年間の性感染症検査の実績は、梅毒RPR陽性件数88/6,379件（1.4%）、クラミジアPCR陽性件数371/6,036件（6.1%）、B型肝炎（HBs抗原）23/5,502件（0.4%）であった。また、2015年度から2023年度までの9年間の外国語対応件数は、2,227/6,428件（34.6%）であった。

2023年度の受検者への聞き取りから受検理由は、「無料」「クラミジア検査を希望」等があげられた。検査定員に対する受検者数の割合は、2018年度1,268/980件（129.3%）、2019年度1,222/1,250件（97.7%）、2020年度中止、2021年度19/40件（47.5%）、2022年度263/960件（27.3%）、2023年度721/1,050件（68.6%）であった。

1-2. イベント検査について

イベント検査は「男性のための検査」および「女性のための検査」が含まれる。

①「男性のための検査」について

MSMを含む男性を主な対象に、年2回程度実施した。2023年度の周知は、区のホームページやSNSへの掲載のほか、委託先のNPO法人による「ゲイのためのHIV・性感染症検査」と表記したリーフレットの作成および配布、マッチングアプリやSNSに広告の掲載を行った。

2015年度から2023年度までの9年間のHIV検査の実績は、実施回数15回、HIV陽性件数は10/696件（1.4%）であった。2015年度から2023年度までの9年間の性感染症検査の実績は、梅毒RPR陽性件数29/690件（4.2%）、クラミジアPCR陽性件数26/687件（3.8%）、B型肝炎（HBs抗原）5/691件（0.7%）であった。また、2015年度から2023年度までの9年間の外国語対応件数は、143/702件（20.4%）であった。

2023年度の受検者への聞き取りから受検理由は、「お店に貼ってあったリーフレットを見た」「マッチングアプリの広告を見た」等があげられた。検査定員に対する受検者数の割合は、2018年度98/80件（122.5%）、2019年度124/100件（124.0%）、2020年度中止、2021年度19/40件（47.5%）、2022年度62/80件（77.5%）、2023年度78/100件（78.0%）であった。

②「女性のための検査」について

SWを含む女性を主な対象に、年1回実施した。2023年

度の周知は、区のホームページやSNSへの掲載のほか、「女性のためのHIV・性感染症検査」と表記したリーフレットなどの啓発資材を区内のホテルや大学、女性を支援するNPO法人等へ配布した。

2018年度から2023年度までの6年間のHIV検査の実績は、実施回数4回、HIV陽性件数は0/122件（0%）であった。2018年度から2023年度までの6年間の性感染症検査の実績は、梅毒RPR陽性件数0/120件（0%）、クラミジアPCR陽性件数8/103件（7.8%）、B型肝炎（HBs抗原）0/118件（0%）であった。また、2018年度から2023年度までの6年間の外国語対応件数は、27/122件（22.1%）であった。

2023年度の受検者数名への聞き取りから、受検理由は「大学の保健室でリーフレットを見た」等があげられた。検査定員に対する受検者数の割合は、2018年度29/40件（72.5%）、2019年度37/50（74.0%）、2020年度および2021年度は中止、2022年度27/40件（67.5%）、2023年度29/50件（58.0%）であった。

2. 受検者数の推移

本事業の受検者数および受検者のうちMSMとSWの件数、割合の推移を表2に示す。

2-1. 本事業について

1999年度の受検者数は408件であり、その後徐々に増加した。2019年度は1,383件、2020年度は中止、2021、2022年度は検査回数、検査定員を縮小して実施しており、2021年度は38件、2022年度は352件、2023年度は828件であった。

2-2. イベント検査について

①「男性のための検査」

2001年度の受検者数は42件であり、その後徐々に増加した。2019年度は124件、2020年度は中止、2021、2022年度は縮小して実施しており、2021年度は19件、2022年度は62件、2023年度は78件であった。受検者のうちMSMは、2015年度は62/93件（66.7%）、2023年度は25/78件（32.1%）であった。

なお、MSMの定義は、問診票の性自認が男性の受検者のうち、「性行為の相手が男性もしくは男女両方」と回答した者とした。

②「女性のための検査」

2018年度の受検者数は29件、2019年度は37件、2020、2021年度は中止、2022年度は縮小して実施し27件、2023年度は29件であった。受検者のうちSWの割合は、2018年度は4/29件（13.8%）、2023年度は0/29件（0%）であった。

なお、SWの定義は、「女性のための検査」の受検者のうち、アンケート調査で「性風俗店等に勤務している」と

表2 新宿区における HIV・性感染症検査の受検件数および MSM, SW 数と割合の推移

年度	HIV・性感染症検査	定期検査	男性のための検査			女性のための検査		
	受検件数	受検件数	受検件数	MSM 件数	MSM 割合 (%)	受検件数	SW 件数	SW 割合 (%)
1999	408	408	—	—	—	—	—	—
2000	406	406	—	—	—	—	—	—
2001	598	556	42	ND	ND	—	—	—
2002	815	778	37	ND	ND	—	—	—
2003	712	672	40	ND	ND	—	—	—
2004	732	694	38	ND	ND	—	—	—
2005	808	769	39	ND	ND	—	—	—
2006	844	781	63	ND	ND	—	—	—
2007	865	802	63	ND	ND	—	—	—
2008	981	889	92	ND	ND	—	—	—
2009	901	807	94	ND	ND	—	—	—
2010	885	807	78	ND	ND	—	—	—
2011	863	788	75	ND	ND	—	—	—
2012	942	877	65	ND	ND	—	—	—
2013	909	874	35	ND	ND	—	—	—
2014	936	904	32	ND	ND	—	—	—
2015	957	864	93	62	66.7	—	—	—
2016	1,010	913	97	34	35.1	—	—	—
2017	1,280	1,155	125	77	61.6	—	—	—
2018	1,395	1,268	98	48	49.0	29	4	13.8
2019	1,383	1,222	124	59	47.6	37	2	5.4
2020	—	—	—	—	—	—	—	—
2021	38	19	19	10	52.6	—	—	—
2022	352	263	62	28	45.2	27	ND	ND
2023	828	721	78	25	32.1	29	0	0
合計	19,848	18,237	1,489	343	23.0	122	6	4.9

ND：データなし，—：未実施。

回答した者とした。

考 察

保健所での HIV 検査は、検査のための採血は、すべての保健所で実施する²⁾との厚生省通知により、全国の保健所で実施されてきた。また、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針では、MSM, SW および薬物乱用・依存者を個別施策層（施策の実施において特別な配慮を必要とする人々）と位置付け、中でも MSM は感染者等の過半数を占めており、特に重点的な配慮が必要³⁾とされている。

新宿区は、早期から HIV 検査を行うほか、「男性のため

の検査」や「女性のための検査」を追加するなど、個別施策層が多く集まる繁華街を有する地域特性に合わせた事業を行ってきた。

本事業の実績や受検者数の推移を踏まえ、以下のとおり課題分析を行った。

1. 本事業全般について

2020 年度から 2022 年度までの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の時期を経て、定期検査の受検者数は 2019 年度 1,383 件、2023 年度 828 件、「男性のための検査」は 2019 年度 124 件、2023 年度 78 件、「女性のための検査」は 2019 年度 37 件、2023 年度 29 件となっており、定期検査、イベント検査ともに受検者数が減少した。

全国の2023年のHIV検査件数は、自治体が実施する検査106,137件のうち、保健所での検査は70,208件⁴⁾であった。また、民間クリニックは63,120件⁵⁾、郵送検査は153,037件⁶⁾であった。新宿区と全国の保健所のHIV検査件数は、新宿区は2018年度1,395件、2023年度828件(減少率40.6%)、全国の保健所は2018年97,107件⁴⁾で、2023年70,208件(減少率27.7%)であり、新宿区は全国の保健所と比較して新型コロナウイルス感染症流行後の受検者数の回復は限定的であった。

医療機関での検査や郵送検査等、受検方法が多様化した結果、受検者が自身の希望する要件にあった受検方法を選択する等、受検行動が変容したことで、保健所でのHIV検査件数が減少した可能性がある。そのため、本事業が検査を希望する方が受検しやすい事業とするためには、受検者へのアンケート調査やNPO等が行う調査結果の活用により受検者が希望する検査内容や受検方法を把握することが重要である。その上で、即日検査の導入を含む検査事業の運用方法等について見直しを図る必要がある。

なお、性感染症検査では、梅毒RPR陽性およびB型肝炎(HBs抗体)陽性は「男性のための検査」、クラミジアPCR陽性は「女性のための検査」、外国語対応は「定期検査」の割合が高かった。しかし、定期検査、イベント検査の受検件数が大きく異なるため、比較は困難である。

2. イベント検査について

2-1. 男性のための検査

検査定員に対する受検件数の割合は、「定期検査」は2018年度129.3%、2023年度68.6%であったが、「男性のための検査」は2018年度122.5%、2023年度78.0%であり、定期検査と比較して高かった。また、HIV陽性率については、2015年から2023年の新宿区保健所を含む東京都内の保健所全体では0.5%⁷⁾に対して、「男性のための検査」は1.4%と高く、ハイリスク層が受検していることが示唆された。なお、受検者のMSM割合は2015年度66.7%、2023年度32.1%と低下しているが、日本におけるLGBTQ等に該当する人の割合は8.9%⁸⁾、10.0%⁹⁾、8.0%¹⁰⁾であり、日本におけるLGBTQ等の人口割合と比較して高い割合を維持しているため、MSMを主な対象とした検査事業として一定の役割を果たしていると評価した。

一方、「男性のための検査」のリーフレットは「ゲイのためのHIV・性感染症検査」と表記している。すべての男性が受検しやすい環境のため、多様な性を包摂し当事者への敬意を踏まえた広報や配慮をNPO等とともに検討する必要がある。

2-2. 女性のための検査

2022年度以降、SWの受検件数は0件であり、主な対象

としたSWが受検していない。本事業はSWを「『女性のための検査』の受検者のうち、アンケート調査で『性風俗店等に勤務している』と回答した者」と定義している。青少年を支援する団体への聞き取りから、以下の2つの理由により本事業が「性風俗店等に勤務している」SWの希望する検査要件を満たしていないと考えられる。

1つ目は、性風俗店等に勤務しているSWにおいては、勤務先による従業員の管理体制が強化されており、咽頭や性器のクラミジア、淋菌検査等が求められることがあるが、本事業の検査項目が勤務先から求められる項目を満たしていないこと。

2つ目は、本事業は匿名検査という性質上、検査結果を証明する書類を発行していないため、SWが勤務先に求められる検査結果証明書を提出できないこと、である。

近年、援助交際や街娼等、性風俗店等に勤務していないSWの増加が報じられている。勤務先の管理体制がないため、性風俗店等に勤務するSWより性感染症のリスクが高いと考えられる。しかし、援助交際や街娼を行っている者のすべてが自身をSWと認識しているわけではなく、この点が本事業のアンケート調査におけるSWの定義の限界となり、SWの受検実態を十分反映していない可能性がある。性風俗店等に勤務しているSW以外の女性も受検しやすい事業になるよう見直しが必要である。

2024年8月から性感染症の普及啓発と相談機会の拡充を目的に、区内の繁華街に集まる若者を対象とした「新宿区性感染症普及啓発アウトリーチ型支援事業」を業務委託にて開始した。保健師等の専門職で構成される事業者が性感染症検査の周知や健康相談を行う中で、検査を希望する方が望む検査内容や受検方法を把握し、「女性のための検査」のあり方を検討する必要がある。

結 論

新宿区は繁華街を有する地域特性を踏まえて本事業を行ってきた。しかし、本事業が受検者の多様化したニーズに対応できていないことが課題と考えられた。そのため、今後は受検者が求める検査内容や受検方法を把握するとともに、区内医療機関やNPO等との連携により、現状や課題に応じた見直しを行っていく。

謝辞

本事業にご協力いただいた、特定非営利活動法人akta、特定非営利活動法人ぶれいす東京の皆様へ深謝いたします。

利益相反: 本報告において、利益相反に該当する事項はない。

文 献

- 1) 新宿区：新宿区の人口. https://www.city.shinjuku.lg.jp/kusei/index02_101.html
- 2) 厚生省健康政策局計画課長・保健医療局結核難病感染症課感染症対策室長連名通知：エイズ対策の推進について，1987年3月14日付け 健政計発第13号・健医感発第20号.
- 3) 厚生労働省：後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針，2018年1月18日付 厚生労働省告示第9号.
- 4) 厚生労働省エイズ動向委員会：2023年エイズ発生動向年報.
- 5) 井戸田一朗・佐野貴子・近藤真規子・今井光信：民間クリニックにおける効果的なHIV検査の実施と質の向上のための研究. 厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者：今村顕史) 2023年度総括・分担研究報告書. 30-42, 2024.
- 6) 須藤弘二・佐野貴子・近藤真規子・今井光信・今村顕史・加藤真吾：HIV郵送検査の実態と検査精度調査(2023). 厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者：今村顕史) 2023年度総括・分担研究報告書. 200-209, 2024.
- 7) 東京都保健医療局感染症対策部防疫課エイズ担当：AIDS News Letter 東京都のHIV感染者・AIDS患者，梅毒患者の動向及び検査・相談事業の実績，2024年4月号.
- 8) 株式会社電通 Do!Solutions 運営事務局：LGBTQ+ 調査 2023 実はずっと聞いてみたかったこと. <https://www.d-sol.jp/ebook/lgbtqplus-research-2023-things-i-have-always-wanted-to-ask-you> (2025年2月27日閲覧)
- 9) 株式会社LGBT総合研究所：LGBT意識行動調査 2019. https://www.daiko.co.jp/dwp/wp-content/uploads/2019/11/191126_Release.pdf (2025年2月27日閲覧)
- 10) 連合(日本労働組合総連合会)：LGBTに関する職場の意識調査. <https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20160825.pdf> (2025年2月27日閲覧)